

安全運航のため、風の向きや強さ、水流などを確認しながら、おもてなしの心で操船する森本さん



岩国の夏の風物詩と言えば「錦帯橋のう飼」。遊覧船の上で、かがり火に照らされる鵜匠の巧みな技を眺めながら過ごす時間は日常の煩わしさを忘れさせてくれる特別な時間です。

そんな特別な時間を演出しているのは、遊覧船を30年以上、操船する森本公作さんです。

きで、ミニカーやプラモデルで遊ぶのが好きだったと言います。高校卒業後は、とにかく運転することが楽しくて、休日になると仲間と九州や山陰に出掛けていました。

30歳の頃、職場の先輩から「船をこいでみんか」と声が掛かります。これが森本さんと錦帯橋のう飼との出会いでした。森本さんは船を操ることは楽しかったのですが、お客さんと上手く話すことが苦手で、初めの頃は辞めたいと思いつつながら続けていたと言います。

船頭を続けて2年が経過した頃、森本さんは鵜飼の本場、岐阜県の長良川を見ずして鵜飼いは語れないと思ひ立ち、一人長良川の鵜飼見学に行きました。そこで鵜と鵜匠が一体となっ

た熟練の技やスケールの大きさに感動します。そしてこの素晴らしい鵜飼いを多くの人に知ってもらいたいとの思いを強くしました。

その後の森本さんはこれまで以上に鵜飼いの勉強に励みます。勉強を続けていくと次第にお客さんから「船頭さんの話、楽しかったよ」など、苦手な接遇の面でも、嬉しい声を掛けてもらえるようになりました。

「今も口下手は変わりませんが、おもてなしの心でお客様に向き合うよう心掛けています。乗船したお客様から声を掛けていただくことは、この上ない喜びです」と語る森本さん。「遊覧船は市外の人に乗られることが多いですが、乗船した人は必ずと言って良いほど満足して帰られます。是非、地元の人にも、この岩国の素晴らしい伝統を味わいに来て欲しいです」と話します。



子供を愛するように、20年間共に過ごした愛車コスモスポーツ



森本さんが勉強のために切り抜きした新聞や書籍



錦帯橋のう飼の素晴らしい
をたくさんの人に伝えたい

Vol.155

森本 公作さん
(楠町在住)

昭和33年岩国市出身。平成元年から「錦帯橋のう飼」の遊覧船の船頭を務める。

乗り物好きが高じて、自動車やバイク、船舶の免許を取得。自慢の愛車には20年間乗り続けた。

